

プレスリリース

2016年9月21日
国境なき医師団 (MSF)

MSF、GSK の肺炎予防ワクチン価格引き下げ決定を歓迎

グラクソ・スミスクライン社 (GSK) は 2016 年 9 月 19 日、肺炎球菌結合型ワクチン (PCV) 価格を引き下げ、難民と危機に見舞われた子どもたちを対象に活動する人道援助団体に適用すると決定した。国境なき医師団 (MSF) はこの決定を歓迎するとともに、もうひとつのワクチン製造企業であるファイザー社に対しても GSK の提案にならった最低価格の適用を求めている。

命を守るワクチン、途上国にも買いやすい価格設定を

MSF は 7 年にわたって、世界に 2 社しかない肺炎予防ワクチンのメーカー、GSK とファイザーに対し、より購入しやすい価格を求めて協議を続けてきた。GSK の価格引き下げは、MSF のような人道援助団体にとって、子どもたちを病気から守るための大きな一歩となる。MSF はファイザーも GSK の提案にならうとともに、引き続き両社に対して、途上国——購買力が低く PCV ワクチンを標準的な小児予防接種パッケージに含められない国々に向けたワクチン価格についても引き下げを要望している。

MSF インターナショナル会長のジョアンヌ・リユー医師は「GSK は命の危機にある子どもたちに対する重要な一歩を踏み出しました。この価格引き下げによって、緊急医療の現場では、ようやく、子どもたちをこの致命的な病気から守る活動を拡大できるようになります。GSK は、今後もワクチン価格の低減努力を進めて、肺炎から子どもたちを守る費用を出せないでいる多くの途上国も、低価格での購入対象に加えていただきたいと思います」と話す。

肺炎は小児死亡率の世界的な主因であり、毎年 100 万人弱の子どもを命を奪っている。紛争など人道危機のもとに生きる子どもたちは、特に肺炎になりやすい。肺炎はワクチンで予防できる病気であるにも関わらず、MSF は肺炎に罹患する多くの子どもたちを目にしている。

企業の善意に依存しなくてもすむように

しかし現在にいたるまで、MSF も他の人道援助団体も肺炎予防ワクチンを適正価格では買えなかった。2016 年前半、MSF は、ギリシャにいる難民の子どもたちを対象とした予防接種実施にあたって、ファイザー製のワクチン 1 回分に対し 60 ユーロ (約 6799 円) を支払った。GSK とファイザーが設定する最低価格の 20 倍にあたる額だ。そこで、MSF は両社に対し、危機下の人びとと途上国に適用する肺炎予防ワクチンの価格を子ども 1 人当たり 5 米ドル (約 508 円、全 3 回分合計) に引き下げるよう求める署名運動を実施し、170 カ国から 41 万 6000 筆以上の署名を集め、2016 年 5 月にファイザーと

GSK に提出した。

GSK は 9 月 19 日の発表をもって、人道援助団体を対象に子ども 1 人あたり 9 米ドル（約 915 円）、1 回あたり 3.05 米ドル（約 310 円）で提供すると明言した。GSK の決定により人道援助団体にとって肺炎予防ワクチンは大幅に利用しやすくなるが、ファイザーの肺炎予防ワクチン（PCV13）はまだ MSF をはじめとした援助団体にとって、多くの国で欠かせないツールであるにもかかわらず、ファイザーは自社製品について人道援助団体を対象にした購入しやすい価格設定を拒否し続けている。人道援助関係者を対象に価格を引き下げるかわりに、ファイザーの提案はこれまでのところ、寄贈プログラムにとどまっている。MSF は、任意で行われる企業の善意に依存しないですむよう、ワクチンが購入しやすく持続可能な価格に設定されるよう求めている。


以上

本件に関するお問い合わせ先：

特定非営利活動法人 国境なき医師団日本 広報担当：舘 俊平／趙 潤華

TEL：03-5286-6141／6153 携帯：090-5759-1983 FAX：03-5286-6124

E-mail: press@tokyo.msf.org <http://www.msf.or.jp>

メディア向けツイッターアカウント開設しました。  @MSFJ_Press